

塗料技術で社会からの期待に応え、 社会の課題を解決してきた140年

当社グループは、無毒性の亜鉛華を日本で初めて開発して以来、140年にわたって革新的な技術の開発により社会課題の解決にグローバルで取り組んできました。今後も、環境や社会の変化に伴う新たな課題に積極的に対応するとともに、グループ共通のPurposeのもとで総合力を発揮し、「株主価値最大化(MSV)」を実現していきます。



国産塗料への社会的ニーズの高まり

- 1879 無毒性の亜鉛華を日本で初めて開発
- 1880 国産塗料の完成

塗料需要の多様化と塗料が持つ機能性への着目

- 1912 船底塗料の国産化に成功
- 1912 鉄道車両向けの漆塗料「光沢漆」を開発
- 1920- 国産初の耐アルカリ性塗料、耐酸塗料を開発
- 1929- 合成樹脂塗料を開発 (建築、家具、鉄道車両など)

戦後復興としての民間需要の増加

- 1945- 軍需から民需へ転換しながら、戦後復興に塗料技術で貢献
- 1951- 列車や家電、事務機などを対象とした新技術・新製品を開発

高度経済成長を背景とした
造船・家電・自動車需要の増大

1960- 造船、家電、自動車需要に対応する新製品を投入

1965- 塗料工場、合成樹脂工場、物流拠点、研究所を相次いで整備



社会・環境意識の高まりと
企業の社会的責任への注目

1980- 人手不足や労働安全への対応として、業界に先駆けて生産現場や管理部門の自動化・省人化に着手

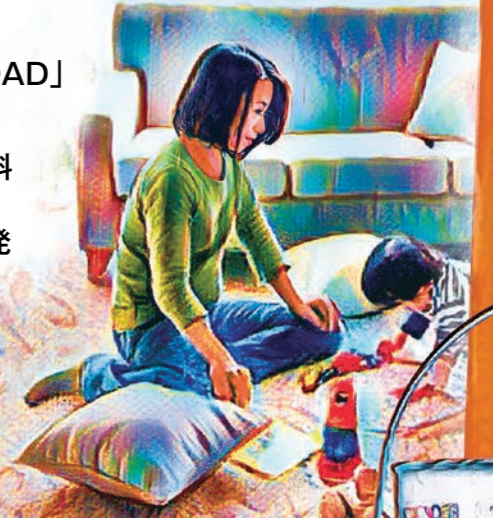
1990 錫フリーの船底防汚塗料「エコフレックス」を世界で初めて開発

2006 道路用遮熱塗料「ATTSU-9 ROAD」を開発

2007 低摩擦型船底塗料「LF-Sea」を世界で初めて開発

2017 抗ウイルス・抗菌塗料の開発

2020 抗ウイルス・抗菌機能を備えた製品ブランド「PROTECTON」を立ち上げ



1880 1890 1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020

日本ペイントグループのコーポレートアクション(グローバル)

1881 前身の「共同組合 光明社」設立(日本)	1918 DuluxGroup創業(豪州)	1949 Wuthelam(ウットラム)設立(シンガポール)	1967-1994 タイ、マレーシアをはじめとし、NIPSEA事業を積極的に拡大	1988 Betek Boya設立(トルコ)	2016-2019 M&Aによるグローバル化推進 Bollig & Kemper(2016)、 Dunn-Edwards(2017)、 DuluxGroup(2019)、Betek Boya(2019)
1898 「日本ペイント製造株式会社」設立(日本)	1919 Bollig & Kemper創業(ドイツ) (現Nippon Paint Automotive Europe)	1962 バン・マレーシア・ペイント・インダストリー (現日本ペイント・シンガポール)設立	1975 米国に進出 (日本ペイント・アメリカ設立)	1992 中国に進出 (日本ペイント・チャイナ設立)	2021 アジア合併事業の100%化 インドネシア事業の買収 日本ペイントグループのPurposeおよび 新中期経営計画(2021-2023年度)を策定
	1925 Dunn-Edwards創業(米国)	※ アジアの販売代理店としてウットラムと提携、 アジア合併事業(NIPSEA事業)の開始		2014 持株会社体制への移行 アジア合併事業の連結化	
	1927 「日本ペイント株式会社」と改称(日本)			2015 事業別の事業会社に分社化	